

会 議 録

会 議 名	平成30年度 山陽小野田市男女共同参画審議会（第1回）	
開催日時	平成30年11月9日（金） 14時～16時	
開催場所	山陽小野田市役所3階議会会議室	
出席者	池田 容子、山本 シゲ子、野口 嘉一、岡部 つや子、大田 雄基、篠原 明子、有田 光枝、棟久 佳子	委員数 12名 出席者数 8名
欠席者	栞原 奈苗、松原 秀樹、大本 章男、末山 泰彦	
事務局等	市民生活部長 城戸 信之、市民部次長兼市民生活課長 藤山 雅之、市民生活課長補佐 山本 満康、市民生活課長補佐 亀崎 芳江 市民生活課主任 岡野 文恵	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 自己紹介 4 副会長の選任 5 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「さんようおのだ男女共同参画プラン 平成29年度実績報告及び平成30年度実施計画」について (2) さんようおのだ男女共同参画プラン改定スケジュールについて (3) 「第3次さんようおのだ男女共同参画プラン（案）」について (4) 「女性の日」について 6 閉会 	
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 部長が代読した。 3 自己紹介 委員、事務局が自己紹介した。 4 副会長の選任 立候補はなく、事務局より有田委員を提案し、出席全員の承認を得た。 5 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「さんようおのだ男女共同参画プラン 平成29年度実績報告及び平成30年度実施計画」について (2) さんようおのだ男女共同参画プラン改定スケジュールについて <ol style="list-style-type: none"> (1) (2) について事務局より説明した。 (3) 「第3次さんようおのだ男女共同参画プラン（案）」について 	

(3) について事務局より説明し、意見を出していただいた。

委員：項目が多すぎるのではないか。もう少し絞って、今、山陽小野田も少子高齢化で高齢者が一人になっても安心した生活を望んでいることと、ひとり親家庭が以前に比べて増えているので子育てを一生懸命やる中でみんなで参加していきましょうというのに取り組んだらいいと思うが。

事務局：項目が多すぎる事についてはもう一度事務局で確認するが、例えばどの辺をコンパクトにしたらいいと思うか。

委員：やはり一番の問題は少子化。住みやすい、子育てがしやすい山陽小野田市になる事と、今から高齢化が進むから高齢者も安心・安全、住みやすい社会に向けてが一番の目標と思う。

事務局：駅の北側に施設も出来て、子育て世代の方に本市が力を入れている結果として出ていると思うし、一方、高齢化については、どこの市町村も抱えている問題だと思う。担当課が取り組むと思うので、もしその辺の表現が弱いという所があれば後日でも御指摘頂ければと思う。

委員：私は山口県内はほとんど転勤し住んだことがあるが、山陽小野田市と下松市は住みやすいと思った。

委員：今は女性のパワーの方が強いのではないか。男性の方がもうちょっと力を入れるべきと思うが。

委員：学校のメンバーを見ていると昔は生徒会長は男子生徒という感じだったが今、女子生徒が活躍する場が多くてリーダー的な資質を持った女の子がすごく増えていると学校訪問等に行っても思う。

事務局：プラン（9ページ）のアンケート結果でウの学校教育の場で67.3%が平等と感じている。ほかの分野においては男性の方が優遇されていると感じる項目が依然として多い。この子どもが大人になっていけば10年後20年後にはこの表も大きく変わってくると期待したいが、男女共同参画社会を実現していく為に大人である我々が変えていかなければいけない部分。

委員：少なくとも学校現場で学生がこのように平等と思うのが当たり前になってきているのは良い事。当たり前と思っている子たちが大人になってきて、当たり前が本当に社会全体の当たり前になっていくとそれがまた素晴らしい事と思う。

(4) 「女性の日」について

事務局より説明し、意見を出していただいた。

委員：女性の日を作って成果として現れているか。

事務局：近年は毎年講演会を実施し、その講演に対するアンケートは取っている。最近当初の日ごろ裏方を引き受けることの多い女性に感謝という部分に関して、事業を実施していないのが実情。当初、始まったころはそういう事に着目した内容が多かったが、昨年度はDVについて、一昨年度は避難所における女性の役割、女性の立場を大事にした避難所運営という形の講演会を行っている。

委員：今の社会、女性はみんなほとんど働いて裏方はほとんどいないのではないか。

事務局：そこも皆さんに意見を聞きたい。事業の目的を変えなければいけないのかと思うし、まだまだそうは言っても山陽小野田市が事業の目的を変えるまでに至ってなければ継続する。ただ、それを目的として今やっているのではなくて、男女共同参画の推進を目的としてやっている。やっていくことは今後も変わらないが、目的の設定について疑問の声が出ている。女性が参画するには男性の理解も必要で、女性だけはおかしいという意見がある。そこを整理したい思いがある。

委員：今の市長は女性の日を、男女共同参画とは切り離して考えるという考えか。

事務局：女性の日を作った理由が女性に感謝する為であれば、男女共同参画で取り上げず、他で取り上げればよいのではないかと。

委員：つまりここで話し合う事ではない事になる。

事務局：そうなる。市として事業は実施したいが、女性の日のネーミングを含めて意見を求めたいし、そもそもこの事業をやらなくてもいいのではないかという意見もあるだろうし、実施するならこういった目的をもって、理由をもって実施したらいいとか、こういったネーミングにしたらいなどご意見もお聞かせ願いたい。

委員：実際に市民の方の反応は分かっているか。市民の方が賛成ならば続けるべきだと思うし、反対なのに続けるのはいかがか。

事務局：ここ2年間くらいの経験では議会の声はあるが、一般の市民から反対の声はほとんど聞いたことがなく、賛成の人はあえて言わないので把握できていないのが実情。

委員：女性の日があると市民がどれだけ知っているか。私も全然知らなかった。

委員：女性の日が始まった平成22年に丁度この審議会に居たが、協賛事業者を募った事があった。その時は女性にお買い物も割引があったりして感謝されたような記憶があったと思うが。前市長がのぼりを立ててチラシ配布や啓発をしたと思う。それ以降継続は無かったと思う。

事務局：協賛事業者との連携は今も行っていない。